

## 第2次柏市教育振興計画（案）について

「第2次柏市教育振興計画（案）」について、令和3年1月15日から令和3年2月14日まで実施したパブリックコメントにおける意見の概要は以下のとおりです。

No.	区分	意見の概要	市の考え方
1	夜間 中学	私は、柏自主夜間中学のボランティアを続けている。10年間の夜間中学の実績を踏まえ、教育効果の調査研究から公立化に向けた具体的動きをさらに進めてほしい。	今回の調査研究では、公立夜間中学の対象となる方のみならず、こうした方々を日頃支援している関係者・団体にも御意見を伺う機会を設けてまいりたいと考えています。
2	夜間 中学	<p>「米100俵」の故事にもあるごとく、教育は国家100年の計でもある。夜間中学の設置を強く願う。</p> <p>柏市に外国籍の人が幾人在住しているのか分からないが、その子女のためにも教育は必要だと思う。また、何らかの理由で青少年時代十分に学校教育を受けられなかった人たちのためにも、夜間中学の設置は必要であると考えます。</p> <p>千葉県では、夜間中学はまだ市川市と松戸市しか設置されていないそうだが、千葉市も設置に動き始めたそうであるから、柏市もそれらの3市に負けないようすぐにも設置の方向に舵を切るよう切に願う。</p> <p>そして、今ある音楽都市としての名声の上に、更に教育文化都市としての名声を千葉県下に広げていこうではないか。</p>	公立夜間中学の対象となる方は、義務教育未修了の学齢超過の方、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業された方、本国や我が国において、十分に義務教育を受けられなかった外国籍の方などが想定されますが、令和3年度中にこうした方々やその方々を支援している関係者等を対象に調査を実施し、どのようなニーズがあるか等、丁寧に調査研究を進めてまいります。
3	夜間 中学	松戸自主夜間中学で約20年、スタッフとして生徒とともに学習活動等を続けている。不登校者、障がい者、義務教育で十分な学びを達成できなかった人、外国人等々、様々な問題や悩みを抱えた人たちが、松戸自主夜間中学が1983年に開設されて以来絶えることなく訪れてきている。ここ5、6年は外国人の増加が目立ち、今や60～70%を占めている。柏で	今回の調査研究では、公立夜間中学の対象となる方の潜在数や各々にどのようなニーズがあるか等、関係者・団体へのヒアリングを含め丁寧に調査研究を進めてまいります。

	<p>も2009年に柏自主夜間中学が開校され、活動を発展させてきていることは御存知の事と思う。</p> <p>こうした学びを求める人たちの増加は全国的な現象で、2016年に「教育機会確保法」が成立すると、2019年に松戸市と川口市に公立の夜間中学が開校し、それを先駆けとして今や各地で新たな開校が実現ないし準備されてきた。県下でも千葉に開校の動きがあると聞いている。</p> <p>柏市においても、日々生活していると年々外国人が増加しており、また不登校や引きこもりの人の話も身近に耳にするところである。柏市に公立夜間中学の設立を求める人たちは、たくさんいると思う。早急に多くの人たちの要望に応じていただくことを、切に願います。</p>	
4	<p>夜間中学</p> <p>公立中学校夜間学級に関しては、平成28年度に成立した「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（教育機会確保法）により、以前は公立中学校夜間学級（夜間中学）を学校教育法施行令第25条第5項に基づく2部事業として開設されていたものが、直接、法律の規定に基づく制度として検討できることとなった。</p> <p>また、様々な事情で義務教育を修了できなかった方や十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により中学校を卒業した方など、改めて中学校で学び直すことを希望する方に加え、国際人権規約の面からも、日本に定住する外国人等に対しては社会が支えていく必要があるとの視点から、公立中学校夜間学級（夜間中学）は有効な場である。</p> <p>さらに、教育機会確保法成立以降、全国各地において、公立中学校夜間学級（夜間</p>	No. 3に同じです。

		<p>中学)の開設に向けて動き出している。</p> <p>千葉県内では、市川市、松戸市において既に公立中学校夜間学級(夜間中学)が開設されており、千葉市においても今年度、令和5年開校を視野に入れた公立中学校夜間学級(夜間中学)に係るニーズ調査が行われた。</p> <p>私たちは県内でも、多くの公立中学校夜間学級が必要であると考えており、中核市である柏市においても公立中学校夜間学級(夜間中学)を開設することは急務であると考えている。</p> <p>これらを受けて、本計画を積極的に推進し、柏市立中学校夜間学級を開設してほしい。</p> <p>【ほかに同意見1件】</p>	
5	夜間 中学	<p>市外在住であるが、柏自主夜間中学校の活動に、僅かながら関わらせていただいている。</p> <p>本計画に、公立夜間中学校設立に向けた調査研究に関する事項が含まれていることに賛辞を送る。</p> <p>私は、教育の福祉的な側面が大切だと感じている。この地域に住む全ての人が、平等に教育を受けられ、読み書きができ、周囲とのコミュニケーションに困らず生きられるようになればと願う。</p> <p>そのような地域に人は集まり、発展していくものだと思う。</p>	No.3に同じです。
6	夜間 中学	<p>私は退職後のボランティア活動として、松戸市の夜間中学で6年間先生をさせていただいた。学校では授業に付いていけない中学生・日本語がまだ良くできない外国から来たばかりの小学生等を教えていた。彼らは昼間学校では部外者のような感じになり、勉強はあまりやれなかったようであるが、夜間中学で我々に懐き、真面目に勉強</p>	No.3に同じです。

		<p>をするようになった。何人もの子がその後高校・大学へと進学し、今でも時々コンタクトをしてくる。適宜手助けをしてあげれば、立派に社会へ出て行ける子どもたちは多くいると思う。社会のため、その子等のために柏市にも夜間中学の設立を希望する。</p>	
7	夜間中等	<p>(1) 計画案本文の第1部の「3 社会状況の変化」の中に外国籍の人々が増えていることを触れていないのはどうか。外国籍の児童生徒は義務教育をきちんと受けているのか。</p> <p>(2) 計画案本文の第1部の「4 柏市の現状」の(2)に、「不登校児童生徒が増加しています」として、「不登校児童生徒数」が「216人(H26年度)⇒399人(R2年度)」と記されている。不登校の児童生徒の義務教育の保障はどのように行われているのか。</p> <p>(3) 以上の2点の解決策として、公立の夜間中学校の設立を是非検討してほしい。</p>	<p>(1) 第1部の「3 社会の状況の変化」においては、超スマート社会や人生100年時代など、より包括的な状況を記載することとしています。各分野における社会状況の変化は第2部において記載しており、外国籍の子どもが増えていることについて、40ページの「取組の方向2-8」で記載しております。</p> <p>外国籍の児童生徒の就学については、全ての当該児童生徒の学ぶ権利を保障するために、小学校新入学相当年齢の児童や、転入の児童生徒を持つ保護者に対して就学の御案内を行い、柏市立の小中学校へ就学させる希望がある場合は、就学手続を行うよう促し、未就学とならないよう努めています。</p> <p>また、入学後においても、日本語の教育が必要な児童生徒に対しては、日本語指導を実施しています。</p> <p>(2) 不登校児童生徒の学びの保障として、学びの場の提供とICTの活用という二つの側面から支援を行っています。市内には、学びの場として、教育支援センターきぼうの園と3か所の学習相談室を設けて学習支援をしています。ICTの活用としては、eboard(小学校はジャストスマイル)のIDを配付し、自宅でインターネットを利用して学習できるようにしています。また、令和2年度は各学校から授業をライブ配信して、自宅</p>

			<p>にしながら学習したり休み時間に友達と話をしたりすることができるよう、整備が整いつつあります。</p> <p>(3) 公立夜間中学の対象となる方は、義務教育未修了の学齢超過の方、不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業された方、本国や我が国において、十分に義務教育を受けられなかった外国籍の方など、基本的には就学年齢を超えた方が対象となりますが、各々にどのようなニーズがあるか等、関係者・団体へのヒアリング等を含め、丁寧に調査研究を進めてまいります。</p> <p>なお、小中学校に在籍中の外国籍児童生徒や不登校児童生徒への支援については、「取組の方向2-4及び2-8」のとおり取組を進めてまいります。</p>
8	夜間中学	<p>計画案本文の34ページから36ページの「取組の方向2-4 不登校等児童生徒への支援の充実」において、夜間中学の設置に関し、「夜間中学にどのようなニーズがあるか、夜間中学の設置によりどのような効果が見込まれるか等の調査研究を行います。」と書かれている。</p> <p>「競争」と「効率」が求められる社会において、教育にもまた競争と効率が持ち込まれ、生徒は競争をあおられ、教師・設置者は効率が求められているところがあるように思う。このような教育現状において、義務教育未修了者・不登校者の中には、競争・効率が一因となっている方もおられると思う。</p> <p>そこで、調査目的に「夜間中学のニーズ・設置の効果」とあるが、柏市において一人でも夜間中学で学びたいという方がおられるのであれば、「採算」「効果」とい</p>	<p>今回の調査研究では、夜間中学の対象となる方々を日頃から支援されている主な関係者の方々にも御意見を伺いながら、対象者の方々が抱える課題を把握したいと考えております。</p> <p>また、市が取り組む施策及び事業につきましては、市民の皆様に対し、事業の目的や目標、費用等、きちんと説明を行う必要がございますので、頂きました御意見の内容も踏まえながら、調査研究に取り組んでまいります。</p>

		<p>う「効率」を考えずに是非ともその期待に応えていただきたい。</p> <p>また、日本社会の一員として働いている外国籍の方に日本語・地域文化を学びたい・知りたいという方がおられるようである。そのような方のために義務教育相当の教育の機会を設けることは、地域の安定的発展を担う地方自治体の責務であろうと思う。</p>	
9	夜間 中学	<p>私は船橋市立小学校に教諭として30年間勤務した。</p> <p>公立の夜間中学校は、是非必要である。</p> <p>家庭環境から、不登校になる子どもや楽しい学校生活が築けない子どもたちをたくさん見てきた。</p> <p>多様な子どもたちの受け皿として公立夜間中学を是非柏市にも作ってほしい。</p>	No. 3に同じです。
10	夜間 中学	<p>私は幸いにして親から教育の機会を与えられた。</p> <p>しかし、周りには教育を受ける余裕のない友達がいっぱいいた。今もそのような子どもがいることに心を痛めていた。</p> <p>そんな中、このように夜間中学開設の機運が高まっていて行政もそれに応えようとすることに賛成するとともに、何か自分でも協力できることがあれば教えてほしい。</p>	今後、取組を進めるに当たっての御意見として承ります。
11	夜間 中学	<p>公立中学校夜間学級に関しては、平成28年12月に成立した「義務教育の段階における普通教育に相当する機会の確保等に関する法律」、いわゆる「教育機会確保法」（現在、見直しのための研究が進められている）により、以前は公立中学校夜間学級（夜間中学）を学校教育法施行令第25条第5項に基づく2部事業として開設されてきたものが、この「教育機会確保法」の成立によって、法律の規定に基づく制度として開設を検討できることとなった。文</p>	No. 3に同じです。

	<p>部科学省の来年度予算等を見ても、文部科学省等がこの法律の規定に基づいて全国に公立中学校夜間学級（夜間中学）を開設していく方向で積極的に取り組まれているところである。</p> <p>柏市内を始め日本国内には様々な事情で義務教育を修了できなかった方や十分な教育を受けられないまま学校の配慮等により中学校を卒業した方など、改めて公立中学校で学び直すことを希望する方に加え、国際人権規約の面からも、日本に定住する外国人等に対しては社会が支えていく必要があるとの視点から、公立中学校夜間学級（夜間中学）での教育を必要としている人は多数いる。</p> <p>さらに、「教育機会確保法」成立以降、全国各地において、公立中学校夜間学級（夜間中学）の開設に向けて動き出している。千葉県内では、市川市、松戸市において既に公立中学校夜間学級（夜間中学）が開設されており、千葉市においても今年度、令和5年開校を視野に入れた公立中学校夜間学級（夜間中学）に係るニーズ調査が行われた。</p> <p>私は県内にはもっと多くの公立中学校夜間学級（夜間中学）が必要であると考えており、中核市である柏市においても公立中学校夜間学級（夜間中学）を開設することは急務であると考えている。</p> <p>これらを受けて、柏市が検討している本計画を積極的に推進し、柏市立中学校夜間学級を是非とも開設していただきたい。</p>	
1 2	夜間 中学	<p>公立夜間中学校が柏市にできるかもしれないというお話を知り、大変うれしい。私自身も社会人になってから学校に通ったが、そのような方は日本より欧米の方が多いと聞いた。社会で働いたり子育てをしな</p> <p>今後、取組を進めるに当たっての御意見として承ります。</p>

	<p>がら、学びを深める機会がたくさんあることは、そこに住む市民を育て、その人たちが子どもを育てたり、部下を育てたりする時にも、より良い影響を与えるはずである。しかも、いろいろな事情により、義務教育を満足に受けられなかったという方々がいることには、必ず目を向け、手を差し伸べなければならないと、柏市も考えているからこそ、計画案にも夜間中学に関する調査がスタートするのだと理解している。ドキュメンタリー番組で夜間中学を見たが、皆さんとても楽しそうであった。このような学ぶ喜びに満ちた、笑顔があふれる中学校が柏市にできることを、楽しみにしている。</p>	
13	<p>夜間中学</p> <p>計画案本文の第2部の「取組の方向2-4 不登校等児童生徒への支援の充実」の中で、35ページ・36ページに夜間中学の設置について「柏市では、夜間中学の設置に対するニーズや入学対象者の数を正確に把握できていないため、調査等により、その把握を行う必要があります。」「夜間中学にどのようなニーズがあるか、夜間中学の設置によりどのような効果が見込まれるか等の調査研究を行います。」と述べられているが、調査研究ではなく、もう一歩踏み出し、設置に向けた調査を行い、ニーズを掘り起こし、夜間中学を設置してほしい。</p> <p>最近では、8050問題も深刻になってきている。不登校だった若者がもう一度学び直そうとした時の選択の一つとして、また、日本に来て間もない就学年齢を過ぎている若者が、学んだり働いたりできるように、そして、今まで学ぶことのできなかつた人も「中学校卒業」ができる、夜間中学は必要である。</p>	No.8に同じです。



		<p>夜間中学…柏市立中学校夜間学級をつかってほしい。</p>	
14	教職員の負担軽減	<p>学校の組織力の低下と教員の多忙化に対し、人的支援を行うことが示されているが、その役割を調整する管理職、主幹教諭、教務主任等の負担が増すことが考えられる。学校マネジメントでの総合的な調整役として主幹教諭を各校に配置してはどうか。</p> <p>大阪などでは30代の教頭がいると新聞で見た。今後経験の浅い管理職が生まれることが予想される。教頭の業務量は群を抜いて多く、朝早くから夜晩くまで学校にいたることが当たり前のような慣習もあるようである。子育てしながらでも管理職ができるよう、校務分掌・業務量を見直してはどうか。また、管理職でも夏休みや冬休みなど連続で1週間程度ずつ長期に休暇が取れ、海外などに行き視野を広げられる機会を与えられるとよいと思うがどうか。</p> <p>夜18時以降は学校の電話は自動音声にする。18時には全員が退勤できるような職場環境にしていくことは、教職員のメンタルヘルス、ワーク・ライフ・バランスの充実の観点から必要であると考えがどうか。</p> <p>コロナの対応を一つの契機とし、市内行事や学校行事や費用対効果の薄い取組を減らし、教職員が授業準備や子どもと向き合える時間を確保してはどうか。</p> <p>同時に保護者への積極的な発信も不可欠になると思う。HPでの発信と併せて、オンラインで行事や授業参観の様子を中継する等も検討可能かと思う。</p> <p>子どもたちの下校時間を早めることも、教職員の負担軽減につながると思うが、どうか。</p> <p>現状は個人の端末を使用している例があ</p>	<p>主幹教諭については、毎年千葉県教育委員会が行う主幹教諭選考に合格した者を、積極的に学校へ配置しておりますが、今後も研修等を通じて選考基準に達するための人材育成に努めてまいります。</p> <p>教頭の業務量に関しては、教頭が施設管理等のために常に学校にいるような体制は少なくなってきてはいますが、その一方で、教頭の主たる業務であるところの財務事務、労務管理事務及び行政対応の業務量の多さが課題であることは、勤務実態調査で明らかになっています。これらの業務については、教育委員会でも業務削減及び効率化について検討を進め、教頭業務の負担軽減を図ります。</p> <p>長期休暇については、学校の閉庁期間を夏期及び冬期休業中にそれぞれ1週間程度設けており、それ以外でも各学校で管理職が交代で休みを取る等、計画的な休暇取得を励行しております。</p> <p>夜間電話対応については、令和元年度6月より、業務時間外（およそ18時以降）の電話対応を音声ガイダンスでの対応としており、教職員の負担軽減につながったと考えております。</p> <p>行事については各学校へ令和2年度の行事の開催及び中止状況についての調査を行っており、令和3年度以降の開催行事については、開催の必要性などを改めて見直し、精査するよう求めています。また、オンラインを活用した行事や授業参観を配信する学校も少しずつ増えております。今後も、リアルタイムでのライブ配信や、HPへの動画の掲載等の取組に向けて学校を支援してまいります。</p> <p>なお、下校時間の設定については、各学</p>

		<p>るようなので、学校に1台連絡用の携帯電話を配備してはどうか（保護者からの緊急連絡用、養護教諭が病院から連絡する際など）。</p> <p>市内学校間での学力格差、担任間での指導力の格差が懸念される。学校に1名程度長期的な研修である教職大学院を出た人材等を中核となるリーダーとして配置してはどうか。</p>	<p>校が編成する教育課程に基づき定めるところであると考えております。</p> <p>携帯電話の配備については、音声ガイダンス運用開始に伴う夜間・休日の緊急連絡先の周知及び対応フローが確立したことに鑑み、配備の必要性について今後検討していきます。</p> <p>研修については、長期研修制度、教職大学院制度を周知し、活用している教職員が年々増えている状況です。長期研修制度や教職大学院制度で得た知識・経験を、教育現場の課題解決に活用できるような効果的な配置を検討し、実施しております。</p>
15	表記	Societyの表記を全角か半角で統一してはどうか。	フォントの統一を行いました。
16	夜間 中学	<p>この計画の中にもあるが、夜間中学の創設が必要だと考える。義務教育ゆえに、不登校であったにもかかわらず、形式卒業が認められ、社会に出てから義務教育程度の学力を身に付けたいと思っている人が確実に存在する。また、障害があったがゆえに特別支援教育を受けたのはいいが、教科教育の面でもっと学びたかったという人も存在する。更に、家族とともに来日した外国籍の子どもたちが日本の義務教育学校に通えるようになったのはいいが、学習言語としての日本語力が不十分なために、その子本来の学力がきちんと測られていない現実もある。この外国由来の子どもたちは夜間中学の範ちゅうに入れていいかどうかは難しいところだが、義務教育小中学校との連携を前提に、日本語を学ぶ場として夜間中学でも学べるようにするのも良いかもしれないと考える。必要とする人の人数の多寡ではなく、学習権の確保と必要性に是非注目してほしい。</p>	No.8に同じです。
17	夜間	柏自主夜間中学で学びのサポート活動を	No.3に同じです。

中学 始めて11年になる。当初は、生徒さんたちは中高年の方も多く、現在では立派に社会生活をしておられるが、戦中戦後の生活の中で十分に学べなかった部分の学びを求めて通われた。「学びたかった英語を学びたい」「カルチャーセンターなどに行ったけど中学の基礎などない自分には、やさしく学べるとうたっているところでさえ、ついていくことはできなかった」「貧しい家計を支えるために、小中学校で満足に学べないままに仕事につき、仕事に使う漢字すら今も満足に書けず、辛い」という方々が多かった。

社会変化のスピードは速く、現在では不登校や病気、障がいなどで形式卒業をやむなくしたという人たちのほか、外国籍、外国にルーツを持つ若い人たちが多くを占めるようになった。

この方々は、学びの意欲もとても強いものがある。そのような意欲と態度は、一見豊かで、ゆとりがあるような日本社会にうまく適応し自立して行かねばならない厳しさを理解しているからのように思う。

夜間中学は、国の第三期教育振興基本計画の中の文言にもあったように、「誰もが社会の担い手となるための学びのセーフティネットを構築する」ための力の一つになると考える。

柏市でもそのような目的で市立夜間中学が一日でも早く開設されることを強く望む。市立であることは重要である。「学び続けること」「多様性の尊重」というまさに今求められている重要なコンセプトやメッセージを多くの市民に届けて、市民の豊かな発想や知恵を借りて実現してほしい。

既に公立夜間中学は増えつつあり、松戸市にも開設されたが、既存のものにこだわることなく、魅力的な学び、こういうとこ

		<p>ろなら行きたいなあと思えるような柏モデルを是非作っていただきたいと思う。</p>	
18	夜間 中学	<p>柏市にも、学校に通うことができないまま義務教育を修了せざるを得なかった方が多くいる。いろいろな理由で不登校にならざるを得なかった子どもたちや、日本語を習得しないまま外国から日本に来た子どもたちも増えている。これらの方たちは、だれかが手を差し伸べないと社会に適應できないまま引きこもらざるを得なくなる。これは本人にとっても社会にとっても、不幸な事態である。これらの方たちに手を差し伸べ支援することは、教育委員会として必要な責務だと思う。市川市、松戸市においては既に夜間中学は開設されており、中核市である柏市においても必要な施策であることは明白である。是非早急に開設してほしい。</p>	No.3に同じです。
19	4つ の力	<p>行政サービスで各種の福祉関係の講座を利用していたので、幼少期からの、お年寄りや女性や子どもたちなどの社会的な弱者の方々への親切心の教育が必要と考えている。</p> <p>資料の正確な扱い方についての教育がなされていることは承知しているが、福祉分野のようにマニュアルに頼る仕事を希望している立場にあって、計画案の15ページにある「関わり合う力」に、親切心の教育に関して、第五次総合計画後期基本計画の資料にもあるような「地域のちから」が必要だと思う。</p> <p>「相手の立場」から始まる7つの項目にまとまった考え方があることを読むことができると思うので、長い時間を要してでも、この教育が隅々まで浸透することが、正確な情報を扱うこと、ひいては互いの親切心を育むことに通じると考えている。</p>	<p>第2次柏市教育振興計画では、「関わり合う力」を含む4つの力（4つのC）の育成に向けて、その浸透に努めていきます。</p> <p>また、第2次柏市教育振興計画では、「施策展開の方向4 地域・家庭とともにある学校をつくる」のとおり、地域学校協働活動を始めとする地域と連携した取組が進むよう取り組んでまいります。</p>